

各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索



北の森づくり専門 学院の生徒が就業 実践実習



【日高北部森林管理署】

令和4年5月中旬、初夏の汗ばむ陽気のなか、北海道立北の森づくり専門学院の学生が、当署管内の国有林で、森の成長を促すための森林整備の作業に従事していました。当プログラムは、北森カレッジと道内の林業関係事業体が協力して実施されるもので、2年生になると、授業の一環として年に3回、2週間の長期就業実践実習として道内の林業関係の事業体にお世話になるそうです。

この度、当署管内で森林整備事業を請け負っている王子フォレストリー（株）は、2名の学生を実習生として受け入れています。従事している作業は、伐採した木材を一時的に保管する「土場」で、高性能林業機械のハーベスタを使った木材の積み上げやチェーンソーを使った伐採などです。

学生達は事業体のベテラン職員の方々から、技術や安全確保の面からの指導をうけながら、適度な緊張感のなかよい汗を流しているようでした。

「囚徒が植えたスギ林」月形町と多様な活動の森における協定を締結



【空知森林管理署】

令和4年5月25日（水）月形町と空知森林管理署において「多様な活動の森」における国民参加の森林づくり活動に関する協定の調印を行いました。協定場所となる月形スギ保護林は、明治23年に樺戸集治監の開庁10周年記念植樹として囚徒により植えられ、その後国有林に移管されました。望郷の念から囚徒が労をいとわずに手入れをしたと伝えられるスギ林は林齢130年を超え、直径50cm樹高25mを超える個体も多くあり、高く林立する姿は厳かな雰囲気にも包まれています。スギ林を横断している町道や林内には遊歩道もあり、月形町から歴史あるスギ林を自然観察教育や美化活動等を行う場として活用したいとの要望があり協定締結に至りました。多くの町民の方に親んでいただきたいと思います。

小清水原生花園 の火入れ (令和4年5月12日)



【網走南部森林管理署】

小清水原生花園は、網走南部森林管理署管内の小清水町にある、オホーツク海と濤沸湖に挟まれた約8kmの砂丘に形成された天然のお花畑です。

網走国定公園にも指定されており、時期になるとスカシユリやエゾキスゲ、ハマナスなどの花々が咲き乱れます。しかし、近年は野火の発生や家畜の放牧等による攪乱の減少や外来種の侵入により、花々は衰退傾向にあるため、人為的に火入れを行うことで植生の回復を図っています。

この小清水原生花園は真ん中を国道244号線とJR釧網線が貫いているため、火入れは朝4時半から列車の始発前に国道を止めて行われます。

当日は前日以前から晴れが続き、海へと風が吹く絶好の火入れ日和。枯草に火をつけるとたちまち燃え上がり、海側へと火が移っていきました。

小清水原生花園の花の見ごろは6月中旬から7月中旬とこれからなので、ぜひお越しください。

朱鞠内小学校で 春の森林環境教育 を実施



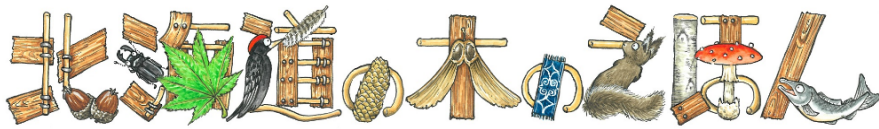
【空知森林管理署 北空知支署】

令和4年5月18日（水）、幌加内町立朱鞠内小学校の「わんぱくの森」において、今年度初となる森林環境教育を実施しました。

今回は、「春を探す」を課題に全校児童6名、教職員4名が参加し、当支署から職員7名のサポートにより実施しました。

最初に参加者の自己紹介、本日の活動内容・注意事項などを説明し、冬の間保管していた「わんぱくの森」の看板を設置しました。

森の中を散策して、以前植えたアカエゾマツやミズナラの苗木や巣箱の様子を確認し、今回見つけたキツキがあげた穴があるトドマツの前で、職員から森林で見られる鳥について説明を行いました。続いて、木をノコギリで切る体験を行い、最後に、わんぱくの森をドローンで空から一緒に観察しました。



シナノキ

四季の観察ポイント

春
葉はハート形

夏
開花は6~7月
レモンのような甘い香り

秋
花の蜜を集めるミツバチ

冬
一年生枝は黄~赤褐色
冬芽の芽鱗は大小2枚

アオイ科
シナノキ属
樹高 20~25m
養蜂家が蜂蜜を採取する

北海道から九州まで広く分布する落葉広葉樹。肥沃でやや湿気に富む土地に生え、ハリギリ、ミズナラ、カツラなどと混交し、大きいものでは幹の直径が1mに達します。また、萌芽力が強く、株立ちした樹形もよく見られます。

北海道での開花は6~7月にかけて、道南から道北に移っていきます。レモンのような甘い香りのする花からは良質の蜜が採れるため、養蜂家はシナノキの開花にあわせて各地を移動します。

樹皮は暗褐色で縦に浅く割れ目が入る

リンゴの絵日記

わあっかわいい木彫りの熊！

シナノキから彫られた、鮮やかな熊や、

シナノキから彫られた、熊や、

1922年尾道徳川十九村当主・徳川義親は流石のスイスで仕上げたお土産品の木彫りの熊を、翌1923年から尾道義親道が贈答した道南の八雲に持ち込んだ。

一昔前、北海道土産といえは、この木彫り熊だった。

ほとんどの工芸家は「刃物を痛めない」として、軽く柔らかいシナノキで熊を彫った。

同時に色が白く、木目が穏やかで大きく成長するシナノキは、シナ合板として活用され、北海道の経済を支えたんじや。

さらには花からは蜂蜜もとれる！

私も蜂蜜、大好き!!

シナノキの Spoon

オオヒヨウと同じく樹皮から糸を作り、背負い袋や、背負い紐の材料、建材の連結紐など、いろいろな用途に使用しました。オオヒヨウより硬いため織物にはあまり向かなかったようです。

「ニヘム」「シ・ニヘム」と呼びます。

シナノキとシナノキの香りが

シナノキの材は他の広葉樹と比べて軽く柔らかく、乾燥や切削などの加工が容易であるため、木彫り熊をはじめとした工芸品や、アイスの Spoon などに利用されてきました。

また、木目は白く穏やかであること、近縁種のオオヒヨウと合わせて、広葉樹として道内3位の蓄積量があることから、昔は合板の材料として重宝され、道内合板の大部分はシナノキから作られていました。

全ての漫画は、専門家や職人への取材・アドバイスを受け、学術的根拠に基づき北海道森林管理局の職員（平田美紗子）が作成しています。学校の教材やイベントの資料としてもご利用いただけますのでお問い合わせください。

 北海道森林管理局のホームページにて全ページを公開中です。

林野庁 北海道森林管理局 企画課
住所: 札幌市中央区宮の森3条7丁目70番
TEL(011)-622-5228

もり

広報 「北の森林 国有林」6月号
発行 林野庁北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課
〒064-8537 札幌市中央区宮の森 3条7丁目70
I P 電話 050-3160-6300
電 話 011-622-5213
F A X 011-622-5194
<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

今月の木 「シナノキ」

シナノキの開花は6~7月で、レモンのような甘い香りが特徴です。

シナノキのイラストを、表紙の月数字に載せました。

今月の表紙

北海道の木のおほん 12